

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：64303

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03369

研究課題名(和文) 植民地期インドにおける外国貿易・国内交易・物価の長期趨勢と変動 統計的研究

研究課題名(英文) Long-Term Trends and Fluctuations of Foreign Trade, Domestic Commerce, and Commodity Prices in Colonial India: A Statistical Study

研究代表者

杉原 薫 (Sugihara, Kaoru)

総合地球環境学研究所・研究部・特任教授

研究者番号：60117950

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、植民地期インドの外国貿易・国内交易・物価の趨勢と変動に関するデータを総合的に検討し、その比較史的特質と国際的文脈を明らかにすることである。19世紀末以降に比べて体系的な検討が遅れている19世紀前半から1880年代にかけての外国貿易、国内交易に関するデータをBritish Libraryなどから収集し、19世紀中葉までの管区別のデータと、その後の英領インドのデータをつきあわせて、その連続性を検証した。また、1850-1880年代の国内交易の趨勢についてさまざまな系列のデータを参照しつつ、外国貿易だけでなく国内商品の流通も増加し、幅広い国内市場が形成されたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examines statistics relating to foreign trade and internal trade in British India, and analyzes the patterns and development of foreign and internal trade in a comparative perspective. By comparing the trade statistics of each presidency, which was the main source from the early to the middle of the nineteenth century, with those of British India, and by putting together the statistics of coasting, rail- and river-borne, and road-borne trade, along with that of foreign trade, we find that there appears to have been a growth of internal trade, especially in the second half of the nineteenth century. Induced by the growth of networks of railways and steamships as a result of the growth of long-distance trade, domestic goods ranging from local grains and spices to cotton textiles and sundries circulated across the subcontinent. The pattern resembles the concurrent growth of foreign and regional trade in East Asian countries at a similar stage of integration.

研究分野：経済史

キーワード：インド 「長期の19世紀」 外国貿易 国内交易 物価

1. 研究開始当初の背景

近年のグローバル・ヒストリー研究においては、過去2世紀にわたる工業化の世界的普及を、西洋で生まれた技術や制度が一方的に普及したことの結果とみるのではなく、例えば東アジア地域(日本、中国など)には、資本蓄積や労働節約的技術の発展よりも、労働投入や労働力の質の向上を重視する、独自の発展経路が長期にわたって存在したとする見解が表明されている。南アジア地域でも、長い植民地支配による制度的断絶にもかかわらず、厳しい資源環境のなかで人口扶養力を維持するために育まれた価値観と、それにもとづく技術や制度には、長期の発展経路と呼ぶにふさわしい連続性も認められる。

こうした研究関心に呼応して、植民地期の貿易史、国内市場史、景気変動の理解も大きく変化しつつある。すなわち、英印関係とインドの手紡、手織業の衰退に焦点をあわせた従来の理解から、その重要性を否定しない範囲で、在来産業の一定の残存と復活、農業における集約化、労働集約型工業化、国内市場の拡大、価格下落の下での生産の拡大などを強調する研究潮流への転換である。植民地期の外国貿易・国内交易・物価の動向がさまざまな立場の論者から注目されつつある。

アジア経済史研究においては、19世紀後半以降のウェスタン・インパクトへの対応としての、アジア域内交易(アジア間貿易、インドから日本までを含む)の重要性が指摘されてきたが、近年はそれを19世紀前半に伸ばして議論する傾向が顕著である。18世紀末から第一次大戦前までを一括りにして考える「長期の19世紀」論の視点からは、インド貿易史の再検討が一つの焦点となる。そして、19世紀初頭に実質的な独占が崩れるイギリス東インド会社のデータと、領域支配の拡大に伴って記録されはじめるベンガル、ボンベイ、マドラスの各管区が収集したデータ(国内交易を含む)さらに大反乱以降「英領インド」という枠組で収集された諸データを統合的に理解することが求められる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、植民地期インドの外国貿易・国内交易・物価の趨勢と変動に関するデータを総合的に検討し、その比較的特質と国際的文脈を明らかにすることである。「長期の19世紀」には、工業化の影響が世界化し、国際分業体制が発達したが、非ヨーロッパ世界の貿易・交易・物価のデータは極めて不完全で、その趨勢と変動が実証的に明らかにされてきたとは言えない。インドは相対的にはデータが豊富であるにもかかわらず、植民地化にともなう度重なる領土の変更や母国本位の視点での統計収集のために、その利

用がむずかしかつた。本研究は、新しい視点と資料環境の下でこの限界を突破し、インド経済史のいくつかの論点に光を当てる。

3. 研究の方法

本研究では、(1)データの収集・入力・加工に過半の経費と労力を投入し、大英図書館、ロンドン大学図書館をはじめ、イギリス、インド、日本の図書館・資料館で収集した情報に必要な史資料を付け加えて、データを蓄積する。次に、(2)メンバー間の交流を深め、内外のセミナー、国際会議で成果を報告するとともに、英和両文で刊行する。

4. 研究成果

(1) データの収集と加工

まず、杉原、小林が「19世紀中葉照合ペーパー」プロジェクトを立ち上げ、British Libraryの原統計とBritish Parliament Papersにある統計が交差する1834-1870年頃の地域別、商品別データを比較することで、いかにして1868年頃に「英領インド」統計が形成されたか、その過程でどのように「外国貿易」「沿岸交易」「管区内交易」が分化していったかを明らかにした。また、BLにある19世紀後半の管区による国内交易関係の刊行物(Administration Reportsなど)から、道路、河川交易の情報の収集に努めた(学会発表)。BLなどから入手した多くの資料を政策研究大学院大学(GRIPS)の杉原研究室でリサーチアシスタントに入力、加工してもらった。杉原は2016年10月に京都の総合地球環境学研究所へ移動したが、2017年度も引き続きGRIPSで作業を続けた。2018年2月にすべてのデータを地球研に移し、メンバーの閲覧を可能にした。

(2) 研究会の開催と成果の発表・刊行

3年間で計8回の研究会を開催し、メンバーおよび研究協力者の脇村、谷口が複数回報告して、成果の共有を図った。また、研究協力者のTirthankar Roy (London School of Economics), Parasanan Parthasarathi (Boston College) や、Om Prakash (Delhi School of Economics) と接触し、データの解釈や周辺文献の探索について詳しく意見を交わした。さらに、London School of Economicsで本研究主催のワークショップを開催したり(4名が報告:学会発表²⁸など)、世界経済史会議でメンバーが報告をしたり(学会発表²⁹³⁰³¹³²など)国際ワークショップを東京、京都で計4回開催したり(延べ20名が報告:学会発表¹¹²²⁶²⁷など)して、国際水準を確認しつつ、発信を図った。関連プロジェクトとの連携も有益であった(学会発表²²)。

残念ながら、2017年度中に主要な目的であるデータの公開とそれに基づく論考を刊行す

ることはできなかったが、現在、少しずつ成果が出始めている（引用文献を参照）。さらに、杉原が経済史班代表を務めた GRIPS 新学術領域のプロジェクトと共同で英文論文集を刊行する企画も進んでいる。

(3) 研究全体の内容

「長期の 19 世紀」(図書)を通じた外国貿易、国内交易、為替レート、物価の動向についてある程度の概観を得た(学会発表)。そのなかで、沿岸交易統計の大きな制度的変化の変遷や、道路交通統計の広範な存在、国内物価指数の精緻化の可能性を指摘した。また、小林の整理した管区別データも利用し、19 世紀初頭から 1880 年代にかけての国内交易の拡大過程をある程度整合的、総合的に明らかにすることができた(学会発表)。

もっとも重要な成果は、1850 年前後のボンベイと 1870 年代末のカルカッタ市街圏を事例とした研究であり、それによって、国内交易統計を突き合わせによる検証の方法が見えてきたことである。これらの大市場を動かしていたのは主としてインド在住の商人であったが、彼らの視点から見ると、例えばカルカッタは、単に遠隔地貿易のハブだったのではなく、鉄道と道路、蒸気船と河川・沿岸交易を伝統的に担ってきたさまざまな性能の小型船の 4 つの手段を自在に活用して繰り広げられる国内商品の交易の場でもあった。取り扱われた商品の半分程度は外国貿易とは直接関係のない交易だったと思われる。そして、第一次大戦期以降、インドの鉄道輸送の過半は、遠隔地貿易関連というよりは、国内市場を結ぶものとなった(学会発表²⁹)。さらに、各地の Administration Reports を参照すれば、地方においても、鉄道の駅に新しい道路が建設され、鉄道網を僻地にもつなげる輸送網が形成されたことがわかる。つまり、イギリスの植民地支配が鉄道建設などをつうじてもっとも進展した時期に、伝統的な国内交易も、衰退したり、新しい交通手段によって単にとってかわられたりしたのではなく、地域の多様性を維持しつつ、全体としては大きく拡大したのである(引用文献)。

(4) 若干の個別研究

小川は、ボンベイ史とその交易史の研究を進め、外国貿易、国内交易に加えて、ボンベイ島の地理的な文脈も考慮した考察を行った。また、インド全体の沿岸交易のデータを整備した(引用文献)。

小林は 1800-1870 年の英領インドの外国貿易統計について、体系的に整理したものを研究会で発表した。また、シンガポールを中心とする交易圏とその貨幣史的文脈に光をあてた論文を刊行したが(雑誌論文)。それらは 19 世紀前半から中葉にかけてのインド洋交易圏とインド交易史にも貢献する研究

である。

神田は、18 世紀末から 19 世紀前半の塩の貿易・交易についての長年の研究をまとめた(図書)。西村はアジアのイギリス系銀行およびインドの貨幣流通について報告した。中国を事例とした貿易統計データベースを構築してきた木越は、アジア貿易統計研究にさまざまな比較の視点を提供した。研究協力者の脇村、谷口も、19 世紀前半のインドの不況や貨幣流通について報告した。

<引用文献>

杉原薫、「グローバル・ヒストリーのなかの南アジア」、長崎暢子編『大系南アジア史 4』、山川出版社、2018 年 11 月刊行予定

Michihoro Ogawa, Noriyuki Osada and Kenmei Tsubota, “The Structure of Coasting Trade in British India from 1905 to 1931”, IDE Discussion Paper, 710, 2108, 1-14, URL: <http://hdl.handle.net/2344/00050365>.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 10 件)

杉原薫、「開発主義の環境史的基盤—臨海工業地帯から内陸部への歴史的移動を考える」、『学術の動向』、52-55、2018 年、査読無

Atsushi Kobayashi, “International bimetalism and silver absorption in Singapore, 1840-73”, *Economic History Review*, 1-23, 2018, 査読有, DOI: 10.1111/ehr.12662

杉原薫、「アジア太平洋経済圏と中国の台頭—歴史的展望」、『21 世紀ひょうご』(公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構)、21 巻、93-103、2017 年、査読無

Kaoru Sugihara, “Monsoon Asia, Industrialization and Urbanization: The Making and Unmaking of the Regional Nexus”, *RIHN 11th International Symposium Proceedings 'Asia's Transformations to Sustainability: Past, Present and Future of the Anthropocene*, 67-99, 2017, 査読無

木越義則、「近現代中国の貿易と経済」、『歴史と地理』、708 巻、38-41、2017 年、査読無

Atsushi Kobayashi, “Price Fluctuations and Growth Patterns in Singapore's Trade, 1831-1913”, *Australian Economic History Review*, Vol. 57, No. 1, 108-129, 2017, 査読有, DOI: 10.1111/aeht.12113

西村雄志、「両大戦間期の上海における倉庫業の概観」、関西大学経済史研究会(編)『経済発展と交通・通信』、185-206、2015 年、査読無

木越義則、「曖昧な制度と経済史研究 - 加藤弘之氏の著作に寄せて - 」、『現代中国研究』35・36-5、114-120、2015年、査読有

Michihiro Ogawa, “Internal Structure of Qasba (Town) in the Maratha Kingdom with Special Reference to Qasba Indapur in Pune Suba (District)”, *International Journal of South Asian Studies*, Vol. 7, 135-158, 2015, 査読有

Michihiro Ogawa, “Mapping the Transition of the Land Revenue System in Western India from the Pre-Colonial to the Early Colonial India: Evidence from to Indapur Pargana (1761-1836)”, *Journal of Asian Network for GIS-based Historical Studies*, Vol. 3, 12-20, 2015, 査読有

[学会発表](計32件)

Kaoru Sugihara, “Intra-regional Trade and Labour-intensive Industrialization: A General Discussion”, Workshop on Emerging States in Global Economic History (Part 2), 2018年

Kaoru Sugihara, “Emerging States in Global Economic History”, Workshop on Emerging States in Global Economic History (Part 1), 2018年

杉原薫、「資源ネクサスの大転換—アジアから展望するグローバル・ヒストリー」第15回一橋大学関西アカデミアシンポジウム「アジアに開く関西と日本—その過去、現在、未来」, 2018年

杉原薫、「モンスーン・アジア、工業化、生存基盤の持続性」, 京都大学東南アジア地域研究研究所発足記念シンポジウム, 2017年

杉原薫、「開発主義の環境史的基盤: 臨海工業地帯から内陸部への歴史的移動を考える」, 学術フォーラム「アジアの経済発展と立地・環境: 都市・農村関係の再構築を考える」, 2017年

杉原薫、「India's Internal Trade around 1850: With special reference to Bombay」(発表は日本語)「植民地期インドにおける外国貿易・国内交易・物価の長期趨勢と変動」研究会, 2017年

杉原薫、「環境経済史から考える近代アジア: 成長パラダイムから持続性パラダイムへ」, 環境経済・政策学会2017年大会シンポジウム「フューチャーデザインと新国富論—将来の持続可能な社会をいかにデザインしていくか」, 2017年

Kaoru Sugihara, “Consolidating India's Trade Statistics, c.1800-1890: Notes on Sources with special reference to Administration Reports”, 科研費基盤研究(B)「植民地期インドにおける外国貿易・国内交易・物価の長期趨勢と変動: 統計的研究」と京都大学南アジア地域研

究拠点(KINDAS)グループ1-Bの共催, 2017年

木越義則、「近代中国の一次産品輸出: ステープル理論の視角から」現代インド地域研究(KINDAS)京都大学拠点主催第3回研究会(京都大学), 2017年

Yoshinori Kigoshi, “Asia-Pacific Nexus Reconstructed from Shipping Intelligence of the Port-City Newspapers”, International Workshop; The Hydrosphere and Socioeconomics in Modern Asia - Exploring a New Regional History Using a Database and Spatial Analysis (The University of Tokyo), 2017年

Kaoru Sugihara, “The Asian Miracle in Global History”, Symposium on the History of Asia in the 20th Century: Origins of Prosperity and Stability, Japan Institute of International Affairs, 2017

Kaoru Sugihara, “Trade Statistics and Price Index of Colonial India”, Workshop on ‘Intra-Asian Trade and the Rise of Regional Economy in the Long 19th Century’, 2017

Kaoru Sugihara, “Monsoon Asia, Industrialization and Urbanization: The Making and Unmaking of the Regional Nexus”, RIHN 11th International Symposium ‘Asia's Transformations to Sustainability: Past, Present and Future of the Anthropocene’, 2017

Kaoru Sugihara, “Monsoon Asia, Fossil-fuel-driven Industrialization and Environmental Sustainability”, Workshop on Global Economic and Environmental History, 2017

杉原薫、「植民地期の貿易・交易統計と物価指数について」, 一橋大学経済研究所「アジア長期経済統計インド・南アジア巻」研究会, 2017年

Michihiro Ogawa, “Construction of Caste in the early Modern Maharashtra”, 2 Day Exploratory Workshop CAS-JSPS Joint Research Project on ‘Construction of Caste in Modern Maharashtra’, 2017

Michihiro Ogawa, “A Study on the Development of Jamshedpur in the early Twentieth Century: the Analysis of the Reports on Joint Stock Companies in India”, Workshop on the Comparative History of City Growth in India and Japan: A Case Study of the Iron and Steel Cities, 2017

Michihiro Ogawa, “The Transition of the Land Revenue System in Western India from the Pre-Colonial to the Colonial Period: the Introduction of the Ryotwari Settlement”, Political Economy in South Asia -An International Conference in Honour of Professor Noboru Karashima (1933-2015), 2017

Kaoru Sugihara, “Varieties of Capitalism:

An Asian Historical Perspective”, International Workshop on ‘Economic Change in Global History, 1500-2000’, 2016

杉原薫、「アジア太平洋経済圏と中国の台頭—歴史的展望」, 第17回アジア太平洋フォーラム淡路会議, 2016

⑳ Kaoru Sugihara, “The Asia-Pacific Economy and the Rise of China: An Historical Overview”, The Japan Foundation Center for Global Partnership/ Abe Fellowship 25th Anniversary Symposium on “Emerging Futures in a Changing World”, 2016

㉑ 杉原薫、「India’s Internal Trade, c. 1850-1883: Presidency Data and Calcutta Trade (発表は日本語)」, 京都大学東南アジア研究所共同研究拠点「植民地の東南アジアにおける地域経済の変容に関する比較史的考察」, 2016

㉒ Kaoru Sugihara, “Trends in Energy Consumption in Postcolonial India: A Comparative Perspective”, International Conference ‘Towards Sustainable Development of India and South Asia: Population, Ecology and Environment’, 2016

㉓ Takeshi Nishimura, “The Activities of the Hong Kong and Shanghai Banking Corporation in the Dutch East Indies before the First World War”, the First World Congress of Business History / 20th Congress of the European Business History Association, 2016

㉔ Michihiro Ogawa, “The Development of the Port City ‘Bombay’ after the Opening of the Railway in the Mid-Nineteenth Century”, The Fifth International Conference on Asian Network for GIS-based Historical Studies, 2016

㉕ Atsushi Kobayashi, “An Exploration of the Trade Statistics of Indian Presidencies: Bengal, Bombay, and Madras, 1800-50”, International Workshop ‘Asian Trade and Monetary History in the Long-19th Century’, 2015

㉖ Yoshinori Kigoshi, “Constructing the Database on East Asian Trade in the 19th Century”, Workshop on Asian Trade and Monetary History in the Long 19th Century, 2015

㉗ Kaoru Sugihara, “Reconstructing the Trade Statistics of British India, 1834-1868”, Workshop on Asian Trade and Monetary History in the Long Nineteenth Century for the Japanese project ‘Foreign Trade, Internal Trade and Prices of Colonial India’ at London School of Economics, 2015

㉘ Kaoru Sugihara, “Growth and Diversification of Trade in Domestic

Products in Colonial India: Evidence from Internal Trade Statistics”, Session on ‘Diversity-driven Dynamics of Economic Development (S10125)’, 17th World Economic History Congress, 2015

㉙ Sayako Kanda, “Ecological Diversity and Cultural Resilience: the Salt Market in Eastern India in the Early Nineteenth Century”, Session on ‘Diversity-driven Dynamics of Economic Development (S10125)’, 17th World Economic History Congress (WEHC 2015), 2015

㉚ Michihiro Ogawa, “The Development of the Port City ‘Bombay’ after the Opening of the Great Indian Peninsula Railway”, Session on ‘Formation of Logistics Clusters in the Age of Global Trade Expansion: The Cases in Asia from the 19th to the 20th Century (S10138)’, 17th World Economic History Congress (WEHC 2015), 2015

㉛ Atsushi Kobayashi, “Trade Growth and International Banks in Singapore, c. 1820-1913”, Session on ‘Formation of Logistics Clusters in the Age of Global Trade Expansion: The Cases in Asia from the 19th to the 20th Century (S10138)’, 17th World Economic History Congress (WEHC 2015), 2015

〔図書〕(計13件)

木越義則、「グローバル・ヒストリー」, 河崎信樹・奥和義編『一般経済史』, ミネルヴァ書房、267(47-69, 231-253)、2018年

Kaoru Sugihara, “Monsoon Asia, Intra-Regional Trade and Fossil-Fuel-Driven Industrialization”, in Gareth Austin ed., *Economic Development and Environmental History in the Anthropocene: Perspectives on Asia and Africa*, Bloomsbury Academic, 344(119-144), 2017.

Sayako Kanda, “Competition or Collaboration? Importers of Salt, the East India Company, and the Salt Market in Eastern India, c.1780-1836”, in Ghosh, Sanjukta, Rashkow, Ezra and Chakraborty, Upal. eds., *Memory, Identity and the Colonial Encounter in India: Essays in Honour of Peter Robb*, 367(249-275), 2017

Sayako Kanda, 『塩とインド—市場・商人・イギリス東インド会社』, 名古屋大学出版会、384、2017年

小川道大、「18世紀後半□19世紀前半におけるインド西部の職商集団に関する一考察—マラーター同盟宰相政府の税制史資料に注目して」太田信宏(編)『前近代南アジアにおけるまとめりとつながり』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、329(137-163)、2017年

小川道大、「18-19世紀のマハール集団の内部構造」『マハラーシュトラ州におけるダリトの実像 - その社会的・歴史的多様性』、2016RINDAS プロシーディングス、101 (41-55)、2017年

小林篤史、「国際物流と国内構造改革19世紀のアジアにおける域内分業と中継港」、富澤拓志、小林篤史、田島俊雄編著『アジアにおける経済関係の緊密化と国際分業』、大阪産業大学アジア共同体研究所、174 (3-6、73-91)、2017年
富澤拓志、小林篤史、田島俊雄編、『アジアにおける経済関係の緊密化と国際分業』、大阪産業大学アジア共同体研究センター、200、2017年

Kaoru Sugihara, “Japanese Economic History: Exploring Diversity in Development”, in Francesco Boldizzoni and Pat Hudson eds., *Routledge Handbook of Global Economic History*, London: Routledge, 488(310-328), 2016

久保亨、加島潤、木越義則共著、『統計でみる中国近代経済史』、東京大学出版会、228、2016年

小川道大、「近世インドの農村における農民と「家」」加藤彰彦・戸石七生・林研三編『家と共同性』、日本経済評論社、369 (279-301)、2016年

Kaoru Sugihara and Roy Bin Wong, “Industrious Revolutions in Early Modern World History”, in Jerry H. Bentley and Sanjay Subrahmanyam eds., *Cambridge World History Vol. VI: The Construction of A Global World, 1400-1800 CE: Part 2 Patterns of Change*, Cambridge: Cambridge University Press, 512(283-309), 2015

Kaoru Sugihara, “Global Industrialization: A Multipolar Perspective”, in J.R. McNeill and Kenneth Pomeranz eds., *Cambridge World History Vol. VII: Production, Connection and Destruction, 1750-Present: Part 1 Structures, Spaces and Boundary Making*, Cambridge: Cambridge University Press, 674(106-135), 2015

Kaoru Sugihara, “Asia in the Growth of World Trade: A Re-interpretation of the ‘Long Nineteenth Century’”, in Ulbe Bosma and Anthony Webster eds., *Commodities, Ports and Asian Maritime Trade since 1750*, Basingstoke: Palgrave Macmillan, 318(17-58), 2015

6. 研究組織

(1)研究代表者

杉原 薫 (SUGIHARA, Kaoru)
総合地球環境学研究所・特任教授
研究者番号：601117950

(2)研究分担者

神田 さやこ (KANADA, Sayako)

慶應義塾大学・経済学部 (三田)・教授
研究者番号：00296732

西村 雄志 (NISHIMURA, Takeshi)
関西大学・経済学部・教授
研究者番号：10412420

木越 義則 (KIGOSHI, Yoshinori)
名古屋大学・経済学研究科・准教授
研究者番号：00708919

小川 道大 (OGAWA, Michihiro)
金沢大学・国際基幹教育院・准教授
研究者番号：30712567

小林 篤史 (KOBAYASHI, Atsushi)
大阪産業大学・経済学部・講師
研究者番号：40750435

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

脇村 孝平 (WAKIMURA, Kohei)
大阪市立大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：30230931

谷口謙次 (TANIGUTI, Kenji)
公立鳥取環境大学・経営学部・講師

川嶋稔哉 (KAWASHIMA, Toshiki)
University of Pennsylvania

Tirthankar Roy (ROY, Tirthankar)
London School of Economics

Parasanan Parthasarathi (PARTHASARATHI, Parasanan)
Boston College

Gopalan Balachandran (BALACHANDRAN, Gopalan)
Graduate Institute of International and Development Studies, Geneva